

令和5年産 中生水稲 ヒノヒカリ 栽培しおり

JA香川県小豆地区営農センター
監修:香川県小豆農業改良普及センター

■ 適正な管理で品質向上を図りましょう。 ■ 毎年種子更新100%に取組みましょう。
■ 稲わらは焼かず、すき込みましょう。

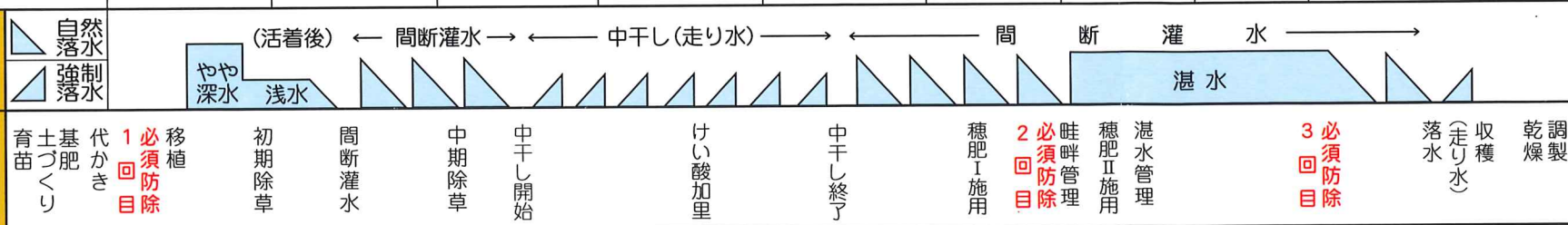
作業の目安

水管理

栽培管理

施肥基準

生育相	活着時期 茎が増える時期 茎の増加を抑える時期 穂ができる時期 穂が大きくなる時期 穂に実が入る時期									
	分げつ期 最高分げつ期					幼穂形成期		穂ばらみ期	出穂期	登熟期(乳熟/穂熟/黄熟/成熟)
品種	作業	移植日	間断灌水開始 (移植15日後頃)	中干し開始	けい酸加里施用 (出穂35日前頃)	中干し終了 (出穂25日前頃)	穂肥Ⅰ施用期 (出穂18日前)	穂肥Ⅱ施用期 (出穂10日前)	出穂期	収穫期
ヒノヒカリ		6月20日	7月 5日	7月20日	7月24日	8月 3日	8月10日	(8月18日)	8月28日	10月6日～10月11日
クレナイモチ		6月20日	7月 5日	7月20日	7月25日	8月 4日	8月11日	(8月19日)	8月29日	10月7日～10月12日



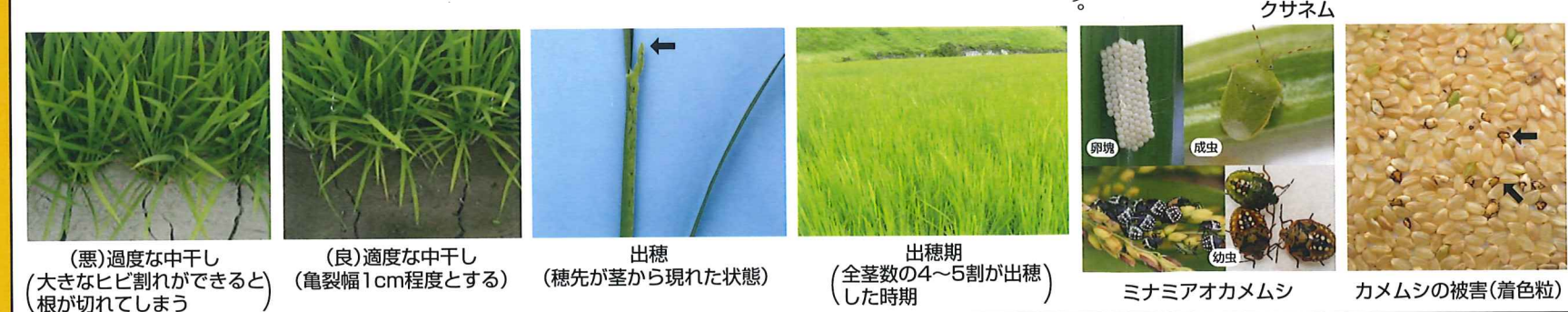
初穂は、乾燥後一昼夜以上経過したのちに行つ。
玄米の仕上がりが水分は14.5%と15.0%とする。
適期収穫に努め収穫後は3時間以内に乾燥に移す。
初穂の80%以上が黄変したら刈り取る。
刈り取り作業に支障のない限り遅らせ、落水後も田が乾きすぎ
クサネムは収穫前に抜き取る。

病害虫防除基準参照

出穂10日前頃～出穂10日後頃
穂ばらみ期から傾斜するまで湛水管理する。
葉色が濃いようであれば施肥を控える。(施肥基準参照)
カメムシ対策として、畦畔等の草刈は出穂10日前までに、
病害虫防除基準参照
水稲の生育状況を見て、施肥量を削減する。(施肥基準参照)
出穂18日前に施用する。(幼穂長0.5cm)

丈夫な根を維持する。
出穂25日前頃には終了し、間断灌水を再開し、
出穂35日前頃に施用する。(施肥基準参照)

亀裂幅が1cm程度になったら、走り水を行う。
小さなヒビ割れができる程度に控える。
極端に干しすぎないよう田面が黒乾きで
茎数が20本以上になれば中干しを開始する。
発生した雑草の種類に応じた適期除草を行う。
(2～3日湛水、2～3日落水)
移植15日後頃より間断灌水を始め、根を乾かす。
少なくとも7日間湛水、かけ流しはしない。
除草剤施用後、3～4日間は湛水し、
移植後、やや深水にし、活着後は浅水にする。
浅植え・植付深さ2～3cmとする。
植付本数は3～4本、株間18cm程度とし、
病害虫防除基準参照
代かきではできるだけ均平になるように行う。
代かき直前に施用する。(施肥基準参照)
土壌改良資材を施用する。(施肥基準参照)
健苗づくりに努める。(別紙、水稲育苗のしおり参照)



●ヒノヒカリ 穂肥施肥体系 (kg/10a)						●ヒノヒカリ 基肥1回施肥体系 (kg/10a)					
堆肥	肥	総量	基肥	出穂 35日前頃	穂肥Ⅰ (出穂18日前)	穂肥Ⅱ (出穂10日前)	堆肥	肥	総量	基肥	出穂 35日前頃
粒状ユーキザイカル または 粒状くろがねシリカ	施用は水稲収穫後の冬 季とする。 施用後は速やかに鋤き こみ、土壌に十分混和 させる。	500	500				堆肥	肥	500	500	
スーパーブレンドLP40	いずれかを使用	100	100				粒状ユーキザイカル または 粒状くろがねシリカ	施用は水稲収穫後の冬 季とする。 施用後は速やかに鋤き こみ、土壌に十分混和 させる。	100	100	
朝日BB488		50	30		20		スーパー固形400J		50	50	
けい酸加里		60(70)	40		20	(10)※	けい酸加里		20	20	
		20		20							20

※食味の低下を防ぐため、葉色の濃い場合は穂肥Ⅱの施用は控える。

病害虫防除基準

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量・回数
種子消毒	稲心枯病、ばか苗病、こま葉枯病、いもち病	スミチオン乳剤1,000倍(は種前/1回/6～72時間浸漬)
	いもち病、紋枯病、ウンカ類	テクリドCフロアブル200倍(浸漬前/1回/24時間浸漬)
必須1回目	緑化期から移植当日	ビルダープリンスグレートム粒剤 50g/箱(1回) (スタウトダントツ箱 粒剤 50g/箱(1回)) (但し紋枯病には効果なし)
必須2回目	出穂10日前(粒剤の場合)	イモチエーススタークル粒剤 3kg (収穫35日前まで/1回)
	出穂前～出穂期(水和剤の場合)	ノンプラスバリダントツフロアブル1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/2回以内)
必須3回目	出穂7～10日後(粒剤、豆つぶの場合)	スタークル粒剤 3kgまたはスタークル豆つぶ 250g (収穫7日前まで/3回以内)
	出穂10～14日後	トレボンEW 1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/3回以内)

※出穂直前に粉剤で防除を行う場合は、飛散に注意し下記の薬剤を使用する。
穂いもち、ウンカ類、紋枯病、コブノメイガ、カメムシ 穂前までダブルカットバリダントレボン粉剤 3DL4kg
※「スタークル」を必須防除で2回使用した場合は、確認防除は、「スタークル豆つぶ」か「スタークル
顆粒水溶剤」のどちらか1回までの使用とする。

<確認防除>(10a当たり)

・いもち病	初発期(収穫7日前まで/2回以内)	ブラシフロアブル 1,000倍
・稲こづじ病、紋枯病	出穂25～20日前(収穫45日前まで/2回以内)	モンガリット粒剤 3～4kg
・紋枯病	出穂20日前(収穫30日前まで/2回以内)	リンバー粒剤 4kg
・コブノメイガ、イネツトムシ	若齢幼虫期(収穫30日前まで/6回以内)	バダン粒剤 4.3～4kg
・コブノメイガ、イネツトムシ	若齢幼虫期(収穫21日前まで/6回以内)	バダンSG水溶剤 1,500倍
・斑点米カメムシ類	必須防除後の多発時(収穫7日前まで/3回以内)	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍
・斑点米カメムシ類、ウンカ類	必須防除後の多発時(収穫7日前まで/3回以内)	スタークル豆つぶ 250g

※ノンプラスバリダントツフロアブルとブラシフロアブルは同じ成分を含んでいるため、両方の剤を含めて2回以内の使用とする。



雑草防除基準

	散布時期・回数	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項
初期除草剤(いずれか使用)	移植後3日～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	ナギナタジャンボ 小包装(パック) 10個	①散布後に補植(田直し)はしない。 ②散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。また、散布後少 なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 ③数鉢苗、極端な浅植水田、漏水田では薬害の恐れがある ので使用しない。 ④多量散布、重複散布はしない。 ⑤1キロ粒剤は育苗箱施用剤との誤用を避けるため、 別に保管しラベルの使用上の注意事項を守る。 ⑥フロアブル剤は4～5cmの湛水状態で手振り散布を行う。 ⑦ジャンボ剤は水深5～6cm程度の湛水状態で、パックの まま投げ入れる。なお、水面に浮草、藻類の発生が多い 時や強風時には、薬剤が拡散しにくく薬害がやすす いので、キクトモ1キロ粒剤を使用する。
	移植直後～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	イネキングフロアブル 500ml	
	移植時(田植同時散布)～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	キクトモ1キロ粒剤 1kg	
中期除草剤(いずれか使用)	移植後7日～ ノビエ3葉期まで (収穫30日前まで/2回以内)	クリンチャー1キロ粒剤 1kg	ノビエのみ ① クリンチャー1キロ粒剤、クリンチャージャン ボの使用法は初期除草剤に準ずる。
	移植後25日～ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	クリンチャージャンボ 小包装(パック) 30個	
	移植後20日～ ノビエ4葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	クリンチャーバスメ液剤 1,000ml、水70～100ℓ	ノビエ及び広葉雑草 ① クリンチャーバスメ液剤は、落水後に散布し、 3～5日間は落水しない。 ② ワイドパワー粒剤は、落水散布または浅水状態 (水深1～2cm)で散布し、その後2日間は落水、落 水しない。散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③ 散布後2日以内に降雨があると効果が劣る場合 があります。
	移植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫60日前まで/1回)	ワイドパワー粒剤 3kg	

- ＜留意事項＞
- ① 原則としてつなぎ肥は施さない。特に基肥1回
施肥は、上乗せで追肥をしない。
 - ② 側条施肥は基肥を2割程度減肥する。
 - ③ 野菜跡や肥沃地では減肥する。
 - ④ レング跡の基肥は、レングの出来具合や鋤込
み時期によって異なるが、基肥量を2分の1か
ら3分の1程度に減肥する。

農薬散布の際には、近接ほ場の栽培作物に農薬が飛散しないよう細心の注意を払いましょう。 田面では、被覆肥料の肥料成分溶出後に被膜殻が浮上する事がありますので、被膜殻をほ場外へ流出させないように注意してください。

作成2022年11月